

第 1 回 江端川総合治水協議会 議事要旨

日時：平成 18 年 10 月 5 日（木） 13：30～15：30

場所：福井県庁 11 階 1102 会議室

1. 開会

2. 主催者挨拶（名津井福井県河川課長）

3. 委員紹介

（事務局）高島秀明、高島武彦両委員の所属を「連合会長」から「自治会連合会長」に修正する。

4. 江端川総合治水協議会の設立

- ・ 設置趣旨、今後のスケジュール、設置要綱、公開方針が承認される。
- ・ 委員長に福原委員、副委員長に早瀬委員が推薦され承認される。

5. 自己紹介

- ・ 江端川沿いの自治会は豪雨時にたびたび浸水被害に遭っている。協議会が立ち上がったことは大変ありがたいことである。当協議会を重ね、より良い対策案を協議し合いたい。（代表的な意見から抜粋）

6. 審議

（事務局）第 1 回協議会資料説明（配布資料に沿って）

（坂川委員）ポンプ場は昭和 36 年から設置されてきているが、古いポンプのオーバーホールなどの維持管理状況について教えてほしい。

（事務局）資料 18 ページに示すとおり、第 1 排水機場は昭和 36 年から昭和 61 年に 3 台、第 2 排水機場は平成 3 年に 3 台を整備している。日常の通常点検はもちろんのこと、第 1 排水機場は平成 16 年から 17 年にかけてオーバーホールしており、稼動状況に支障はない。

（川端委員）江端川の整備期間が概ね 30 年というのは長いのではないか。また、稲作から園芸に転換したい農家が多いが、頻繁に浸水するので困難となっている。

（吉川委員）江端川合流点の日野川の河道断面が小さいことが江端川へ悪影響しているのではないか。日野川にはかなり土砂が堆積している。また、江端川排水機場のポンプ能力が計画流量に比べ小さいため、中上流部の流速が遅くなり浸水するのではないか。

一方、間古毛川などは直角に曲がるクランク部が多く、この区間の流下能力が小さく浸水しているのではないか。

江端川ポンプ場が動いていない段階から上流部では氾濫している。上流部の雨水が江端川ポンプ場に到達するまでの時間等、雨量と流出までの時間的な関係を示して欲しい。

（事務局）江端川ポンプ場の能力は比流量で $1 \text{ m}^3/\text{s}/\text{km}^2$ であり、県内の他河川（荒川、狐川等）

と比べても同等の能力である。江端川の中上流部の流下能力が小さいことも浸水の原因と考えられる。今後さらに上流部まで改修が進めば、現在のポンプ能力の見直しも検討する必要があるかもしれない。

(高島武彦委員) 江橋場川についても、江端川の水位が上がると排水できていないので、ポンプを設置してほしい。

(坂川委員) 太田江川は、江端川の水が流れれば浸水は軽減できると思う。草刈や河川の小規模な清掃は住民でも出来るが、浚渫等は行政にお願いできないか。

(事務局) 流下の障害があれば管理者毎に適切に対処したい。

(吉川委員) 江端川合流点付近の日野川の河床が高いのではないのか。浚渫できないのか。

(事務局) 以前にも要望があり、国交省にお願いしている。

(川端委員) 資料 22 ページに遊水機能の確保とあるがどういう意味か。数年に 1 回程度の浸水であればやむを得ないが、毎年となると困る。

(事務局) 公共投資が縮減される中、現段階で河川整備には概ね 30 年ほどかかる。河川改修だけでなく上流域で保水・遊水させる方策を考えないと早期の効果が期待できないと考えている。協議会で話し合いながら総合的な治水対策を考えていきたい。

(坂川委員) 水田に遊水した水が後に市街地に流れ込んで浸水することもある。このような影響がないように配慮して欲しい。

(早瀬副委員長) 江端川は内水河川である。自然に排水が出来ない状況を認識した上で対策を考える必要がある。また、想定外の雨が多く発生するようになったことも原因と考えられる。

このような地域には宅地や工場を乱立させないことも大事である。これまでの点、線の対策から面の対策が重要である。

上流部の農地で保水することにより浸水が軽減できることがある。洪水防御の観点からも水田の保全を考える必要もある。

(福原委員長) 昔と比べて同じような雨でも浸水被害の状況は変わってきたのか。

(高島武彦委員) 足羽団地では昔から浸水はあったが、最近になってようやくクローズアップされてきた。

(高島秀明委員) 30 年前から北山新保町周辺の水田での浸水はあった。太田江川は深見町、栃泉町排水路の整備により徳光町での浸水が増えたと思われる。

(川端委員) 昔から北陸自動車道から江端町までの一帯は白海のように浸水した。しかし最近ではさらに頻繁に起こるようになったイメージがある。

(福原委員長) 可能であれば過去の洪水の状況を調べて欲しい。(事務局対応)

(吉川委員) 最近の降雨は一気に降るようになり宅地浸水が起こるようになった。昔は水田で水を受けてゆっくりと流れ出していた。

(早瀬副委員長) 農林サイドは 10 年に 1 回程度の降雨では被害を起こさない整備をしてきた。それ以上の集中豪雨が起これば浸水するのはやむを得ない。また稲は 1～2 日間水に浸かっただけでは収穫量にそれほど影響は出ない。そういった点をうまく利用して治水対策案を

考えていかないといけない。

(福原委員長) コップの水を溢れさせないためには、入れる水を少なくする、底から水を抜く、コップを大きくする、の3つの方法が考えられる。江端川も同じである。経済性、即効性を考慮した案を検討してもらい、次回の協議内容にしたい。

(坂川委員) 日野川水位が高くない時点から江端川ポンプ場を運転して江端川の水位を下げられないか。

(事務局) 水門が開けられていればポンプを動かさなくとも十分な排水能力がある。

(福原委員長) 降った雨がどのくらいの時間で江端川ポンプ場まで到達するのか、雨量と流出時間等の関係を検討して欲しい。

(福原委員長) 次回は11月21、22、24日で調整して欲しい。

7. 事務局からの連絡等

特になし

8. 閉会 (名津井福井県河川課長)

以上